

高齢者用肺炎球菌ワクチン（PCV20）接種についての説明書

【接種対象者】

初めて高齢者用肺炎球菌ワクチンの接種を希望する方で、次の年齢に該当する方

- ① 65歳の市民の方（66歳の誕生日前日まで）
- ② 60歳～64歳の方のうち心臓・腎臓・呼吸器・ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に自己の日常生活が極度に制限される程度の障がい（身体障がい者手帳1級相当）を有する市民の方

◆対象外となる方◆

- ・過去に、高齢者用肺炎球菌ワクチンの接種を受けたことがある方
（自費で接種された方・大阪市以外で接種された方も対象外となります）

【接種費用】6,000円（令和8年4月1日改定）

※生活保護受給者、市民税非課税世帯の方及び災害のために居住地において定期予防接種を受けることが困難な方は、確認書類の提示により無料になります。

【接種回数及び量】1回、0.5mLを筋肉内に注射します。

1 肺炎球菌感染症について

肺炎球菌感染症は、肺炎球菌という細菌によって引き起こされる病気です。この菌は、主に気道の分泌物に含まれ、咳やくしゃみなどを通じて飛沫感染します。日本人の約5～10%の高齢者では鼻や喉の奥に菌が常在しています。これらの菌が増殖し、下気道や血流中へ侵入することで、気管支炎、肺炎、敗血症などの重い合併症を起こすことがあります。

肺炎には、発熱、悪寒、息切れ、たんを伴う咳、呼吸時の胸痛、倦怠感など、一般的な風邪よりも重い症状がみられます。2023年、大阪市では1,995人が肺炎で亡くなっており、死因の第4位となっています。（大阪市人口動態より）

2 ワクチンについて

ワクチンの接種は本人の希望により行われ、個人の発病及び重症化予防を目的としています。肺炎球菌には約100種類の血清型があり、定期接種で使用される「沈降20価肺炎球菌結合型ワクチン（PCV20）」はそのうちの20種類の血清型が含まれるワクチンです。この20種類の血清型は2024年の国内研究では侵襲性肺炎球菌感染症（IPD）の原因の約5～6割を占めると報告されています。

また、沈降20価肺炎球菌結合型ワクチン（PCV20）は、血清型に依らない侵襲性肺炎球菌感染症（IPD）全体の3～4割程度を予防する効果があるという研究結果があります。

※侵襲性肺炎球菌感染症（IPD）とは、本来は菌が存在しない血液、髄液、関節液などから菌が検出される感染症のことをいいます。

3 ワクチンの副反応

主な副反応は注射した部位の痛み（疼痛・圧痛）（59.6%）、赤くなる（紅斑）・腫れる（腫脹）（1%以上）で、全身的な反応としては筋肉痛（38.2%）、疲労（30.3%）、頭痛（21.7%）、関節痛（11.6%）などがあります。また、重大な副反応として、頻度は不明ですが、ショック、アナフィラキシー（急性の強いアレルギー反応）、けいれん、血小板減少性紫斑病がみられることがあります。

4 予防接種をうける前に

(1) 一般的注意

気になることやわからないことがあれば、予防接種をうける前に担当の医師に質問しましょう。予診票は接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。現在、病気などで治療中の方、今までに免疫状態の異常を指摘されたことがある方は、担当医師とよく相談し十分に納得して接種を受けましょう。

(2) 予防接種を受けることができない方

- ① 接種ワクチンの成分またはジフテリアトキソイドによってアナフィラキシー（急性の強いアレルギー反応）をおこしたことがある方
- ② 明らかに発熱している方（通常は 37.5℃を超える場合）
- ③ 重い急性疾患にかかっている方
- ④ その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいといわれた方

(3) 予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない方

- ① 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患などの基礎疾患がある方
- ② 過去に予防接種で接種後 2 日以内に発熱、全身性発しんなどのアレルギーを疑う症状がみられた方
- ③ 過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある方
- ④ 過去に免疫状態の異常を指摘されたことがある方もしくは近親者に先天性免疫不全症の者がいる方
- ⑤ 接種ワクチンの成分またはジフテリアトキソイドに対してアレルギーをおこすおそれがある方
- ⑥ 血小板減少症、または凝固障がいのある方、抗凝固療法を施行している方

(4) 接種を受けた後の注意事項

- ① 接種後 30 分は体調が変化することがありますので安静にし、医師とすぐに連絡がとれるようにしましょう。
- ② 接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ③ 接種後 1 週間は体調に注意しましょう。また、接種後、腫れが目立つときや体調が悪くなったときなどは医師にご相談ください。
- ④ 違う種類のワクチンと同時接種を希望する場合は、医師にご相談ください。
- ⑤ 入浴はさしつかえありませんが、接種部位をこすことはやめましょう。
- ⑥ 接種当日は体調の変化に気を配り、激しい運動や大量の飲酒は控えましょう。

5 予防接種健康被害救済制度

予防接種の副反応により、医療機関での治療が必要になった、あるいは生活に支障をきたすような障がいが残ったなど、健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。お住まいの区の保健福祉センターにご連絡ください。国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に補償を受けることができます。